昭和

（題字・大槻文平初代会長）
（毎月１回　10日発行）
発　行　所
㈶昭和聖徳記念財団
〒190－0012
東京都立川市曙町2-34-13
オリンピック第３ビル
電話（042)522－2451
FAX（042)522－7747
http://www.f-showa.or.jp

「国民の幸せ祈ります」

天皇陛下　一般参賀に5万人

長和殿のベランダからお手を振られる天皇皇后両陛下（宮内庁提供）

「新しい年をともに祝うことを誠に喜ばしく思います。年頭にあたり、国民の幸せと世界の平安を祈ります」

天皇皇后両陛下は皇族方と二日、皇居・宮殿の東庭で行われた新年恒例の一般参賀で、長和殿のベランダに立たれてお手を振られ、天皇陛下がお言葉を述べられました。

両陛下がベランダに出られたのは七回、静養中の皇太子妃雅子さまは午前中の三回。参賀者は、午後からの雨の影響か、平成に入って最も少ない五万二百十人でした。

両陛下の今年のご予定は、五月に全国植樹祭で岐阜県、九月に国際顕微鏡学会議で北海道、十月に全国豊かな海づくり大会で佐賀県を訪問されることになっています。

皇太子ご一家では、四月に、敬宮愛子さまが学習院幼稚園に入園されます。

昭和天皇記念館を見学して

昭和天皇記念館を開館直後の昨年十二月上旬に見学された昭和聖徳記念財団の北海道音更支部、並びに群馬県支部を代表して鈴木美男事務局長、金子才十郎支部長に感想を書いていただきましたので、ここに紹介させていただきます。

バス２台で来られた群馬県支部の皆さん。金子支部長は後列、皇居にあった飾電燈から左へ２人目

昭和天皇記念館をバックに音更支部の皆さん。前列、左から３番目が鈴木事務局長、五番目が橘正義支部長

音更支部事務局長　鈴木　美男

陛下のお側近くの感

「昭和天皇記念館の開館日はいつ？」―何度も本部事務局に照会、併せて御陵参拝・皇居参観の手続き等、煩わすことも多かったと思いますが、適切な計らいで待ちに待った日がきたのです。

一行三十四名は先ずは高尾の御陵に詣で、「北海道から参りました」とご報告し、御霊の安らかなるを祈念致しました。そして念願の記念館へ。

広大な管理の行き届いた公園の中の記念館、正面には長門保明館長をはじめとする方々の出迎えを受け恐縮する中、ご説明をいただき、素晴らしく整えられた館内に目を見張り、展示物の一点一点に見入っていますと、在りし日の陛下のお側近くに侍ったかの感に打たれたのでした。

ことに、「近衛の兵として奉仕の栄を得ながらも、最後の初年兵は正式歯薄（ろうはく）等の晴れの場に恵まれなかった…」の思いの深い私でしたが、あの特別御料儀装車・歯薄の模型を拝見、同伴の妻に説明すると、何か心の晴れる思いが致しました。

ただ、一番のご軫念（しんねん）であったと拝察される昭和の前半、特に戦中の大方が割愛されたかの感があり、これは現代の内外の情勢を配慮されたものかと思われますが少し残念でした。

翌日は皇居参観、鉄橋（二重橋）を渡らせていただき、念願をすべて果たしました。「得難い体験であった」と喜び合ったところであります。

群馬県支部長　金子才十郎

巡幸のお写真に感激

昨年十一月二十七日に待望の昭和天皇記念館が開館、群馬県支部としては一年前から計画していました会員の見学会を、財団本部のご了解のもとに開館間もない十二月七日に実施いたしました。

昭和天皇のご在位六十年に及ぶ中でのご遺品、お写真等のほか、生涯のテーマとして余暇に熱心に取り組まれた生物学ご研究の成果も展示されていて、感銘深いものがありました。

特に、大東亜戦争終結時に自らのご意思をお示しになられたマッカーサー元帥との会見や戦後に国内を隈なく巡幸されて国民を鼓舞激励されたお写真、苦しみに耐えた国民への思いを託された御製の数々を拝見、感激のほかありませんでした。

開館に至るまでの国土交通省のご尽力と、全国津々浦々にまで及んだ協賛の思いが、この記念館には凝縮されており、これが後世の語り草となることを祈りながら、参加者一同、記念館を後にしたのでした。

その間、群馬県出身で元官房長官の福田康夫先生、財団本部の藤村正哉理事長にはわざわざお越し願って、見学会をともにしていただきご説明願いましたこと、厚く御礼申し上げます。

また、見学会の諸事万端にわたりお世話になりました中曽根吾郎参事には深く感謝いたします。

昭和天皇御製

庭のおもにつもる雪みてさむからむ
人をいとどもおもふけさかな

昭和二十四年

香淳皇后御歌

あさひかげうららにさしてみ垣べの
松のこずゑの雪ぞかがよふ

昭和二十四年

ひと口メモ

昭和24年１月、占領下の日本はＧＨＱから「日の丸」を自由に使用できる許可を得ましたが、独立までは、３年ほどの我慢が必要でした。

清流抄

「シモバシラ」というものがある。きびしい寒さの朝、土中の水分が凍結して氷柱となり、地表の土砂を押し上げる現象のことではない。シソ科に属する多年草でやはり冬の寒い朝、枯れた茎を毛細管現象で上昇した水分が氷結してガラス細工の造花のようにみえる植物のことである。暖かくなると溶けてしまってお目にかかれない▼昭和天皇がお住まいだった吹上御所の前庭にもひっそり生えていて天皇が生前こよなく愛された野草の一つであったといわれる。別名雪寄せ草ともいわれるこのシモバシラは昭和記念公園のこもれびの丘にも生えている▼他の草木とともに公園の職員の手によりひとつひとつ名札がつけられていて、名もなき「雑草」として十把ひとからげに扱われる運命から免れている。昭和天皇もさためしご満足のことと思う▼こもれびの丘から少し足を伸ばせば日本庭園がある。造園後まだ十年に満たないが、そのうち昭和天皇についでご長命だった後水尾天皇が造営された京都の仙洞御所や修学院離宮のような風格が備わってくる日のことを期待しながら、昭和天皇記念館に来訪されたついでに池のほとりをそぞろ歩きをすることもまた一興であろう。（Ｙ）

この刊行物は、宝くじの普及宣伝事業として助成を受けて作成されたものです。